

- Topics…感染症対応のトリアージセンターが完成／特定臨床研究「シモンコライトを用いた難治性皮膚潰瘍の治療」の開始
●取組案内1…泌尿器科 ●取組案内2…麻酔科

附属病院の最新の医療を紹介する広報誌VOL.21が出来上がりました。これを機会に当院の医療を知っていただき、地域のリソースとして有効に活用していただければと思います。

Topics

感染症対応のトリアージセンターが完成

救急車やウォークインで来院する多くの救急患者に日々対応している当院救急部に、新たに「トリアージセンター」が増設され、本年4月より稼働を開始しました。

この施設は、昨今の新興・再興感染症の世界的な大流行と多大なる被害状況を受けて、1)感染症の蔓延時には感染疑い患者の診察や検査を、前室の設置や非接触型センサーを使用することにより十分に感染対策された2部屋の陰圧室で行うことが可能となっています。また救急部CTが隣接して設置されているため、感染症患者のCT撮影も感染対策を講じながら施行することができ、診療にあたるスタッフや施設への暴露を最小限に抑えるなど安全性に配慮されています。これらの施設の感染対策レベルは空気感染を想定した高度な対応レベルとなっています。そして感染症の非蔓延期には、2)突然発生した地震

や大雨洪水、噴火などの自然災害、多くの怪我人が発生する大型バスを含めた多重衝突交通事故や工事現場での崩落事故などの人為災害、これら大規模災害の発生時に多数傷病者を収容し、初期診療にあたること可能なトリアージホールを備えています。このホールは、平時には3)大型モニターを使用し、通信にも対応することで、会議室や講義室として利用可能な構造となっており、山形大学の学生や病院職員への講義や実技訓練教育にも使用が可能です。

このように当院に新設されたトリアージセンターは3ウェイに活用が可能な施設として考案され、内部構造は収納可能な可動式の壁で設計構築されており、平時にも、有事にも、その能力を発揮することができます。

救急部長 中根正樹



トリアージセンター 建物外観



感染対応 処置室



トリアージホール

特定臨床研究「シモンコライトを用いた難治性皮膚潰瘍の治療」の開始

このたび形成外科では「シモンコライトを用いた難治性皮膚潰瘍の治療」が特定臨床研究として承認を受けました。シモンコライト $Zn_5(OH)_8Cl_2$ とは、塩基性亜鉛の一つであり、山形大学大学院理工学研究科の山本教授の研究室が高い創傷治癒効果をもたらすことを発見し、動物実験において確認している物質です。

本研究では、既存の保存的治療に抵抗し治癒傾向を認め

ない難治性皮膚潰瘍の患者さんを対象に、シモンコライトを用いた潰瘍治療を通して、シモンコライトの安全性と有効性の確認、課題の抽出を行う研究になります。難治性の皮膚潰瘍でお悩みの患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひ当院形成外科にご紹介いただければ幸いです。

ふくだのりお
形成外科長 福田憲翁

根治性と低侵襲性の両立を目指した治療

山形大学医学部泌尿器科では、最新の医療技術を用いた前立腺癌の診断装置や根治性と低侵襲を目指した外科治療に取り組んでいます。

<MRI画像融合前立腺生検>

前立腺癌の診断にはMRIが有用ですが、従来の前立腺生検ではMRIで癌が疑われても、その部位を正確に狙った生検を行うことはできませんでした。当科ではMRI画像を超音波画像にリアルタイムで合成し、疑い病変を確認しながら生検（標的生検）する“MRI画像融合生検システム”を導入して生検を行っています。これまで、先進医療として実施してきましたが、令和4年4月から保険適用となり、多くの男性に対して本生検法が行えるようになりました。この生検法は従来の生検で針が届きにくい部位に疑い病変がある方や疑い病変があるにもかかわらず過去の生検で癌が検出されなかった方が良い適応となります。

<ロボット支援手術の適応拡大>

泌尿器科領域のロボット支援手術として、2012年に前立腺癌に対する前立腺摘除術、2016年に腎癌に対する腎部分切除

術が保険適用となり、これまで780例以上の患者さんに対して行ってきました。さらに2021年からは、腎盂尿管移行部狭窄症に対する腎盂形成術や膀胱癌に対する膀胱全摘除術+尿路変向術に対してもロボット支援手術を実施しており、従来行ってきた腹腔鏡手術よりも根治性を向上させつつ低侵襲的な外科手術を目指しています。



図 MRI画像融合生検システム

手術後の早期回復を目指して ～周術期管理センター開設～

山形大学医学部麻酔科では周術期の患者様を対象にした周術期外来を開設しております。侵襲の大きい手術では、術前の状態が術後の回復に影響を与えます。手術が決まった段階で患者様をご紹介いただき、認知機能・栄養状態・サルコペニア・フレイルのスクリーニングを行います。医師・看護師・栄養士・歯科などの多職種が協力して、患者様の術後の早期回復を目指しています。

<周術期外来の流れ>

- ・身長・体重・血圧・酸素飽和度などの測定
- ・In Bodyの機械を用いた体組成測定
…筋量、脂肪量などを測定。筋量が不足している部位も調べます。
- ・握力測定・下腿周囲径測定・椅子からの5回立ち上がり検査
…筋力低下やフレイルを調べます。
- ・栄養状態の簡易スクリーニング
- ・認知機能検査…HDS-R、MMSE、TDASプログラムで評価します。
- ・併存症のコントロール状況の確認、歯科紹介や術前中止薬のチェックなども行います。

スクリーニング後、手術の前に状態の改善が必要な患者様はリハビリ紹介、栄養状態が低下している患者様は栄養指導、認知機能低下がある患者様は神経内科へ紹介を行っています。

手術前の患者様は不安を抱えている方がほとんどです。周術期管理センターでは麻酔科医や手術部看護師も説明を行っています。麻酔科では周術期の痛みの管理に加えて、早期からの全身状態の向上に取り組み、患者様の健康的な自宅退院を目指して引き続き取り組んでいきます。



周術期外来の診察の様子